自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ松風みはま
（ユニット名）	さくら
所在地（県・市町村名）	和歌山県日高郡美浜町和田８２４－９
記入者名（管理者）	濱田　操
記入日	平成　２０　年　６　月　７　日

地域密着型サービス評価の自己評価票

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	･ご利用者を個人として尊重して、安心と尊厳ある生活を実現します ･ご利用者が安全に衛生的な環境で生活できるよう支援します ･ご利用者の主体的な活動･決定が行えるよう支援します ･ご利用者が地域社会の一員として生活できるよう支援します		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員に理念を理解し共有することを介護目標としてより良いケアに向けて取り組んでいます。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム便りを作成し、ご家族に向けて日頃の生活状況や運営報告をしています。また、地方新聞に記事を掲載しグループホームについて知っていただく事で地域の理解と協力を得、地域から孤立しないように努めています。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ボランティアによる定期的な大正琴演奏会や毎月開催している陶芸教室には、地域住民の方々との交流を目的としグループホームを開放しています。また、近隣の保育所の園児との交流も行っています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域内の敬老会への参加や見学、また夕涼み会など開催し地域住民の方々もご協力、ご参加いただきながら地域の拠点となれるよう努めています。本年5月には地元中学生の職場体験学習として2名の生徒を受け入れました。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は入居者様とそのご家族までにとどまっておりますが、地域の相談窓口を配置しており、相談があれば対応できるよう努めています。	○	現在は取り組めていませんが、今後は行政、老人クラブとの連携を持ち、社会資源として地域貢献できるように取り組んでいきたいと考えています。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が2回目の第三者評価となりますが、前回の評価を機会に結果を参考にし、各ユニット間で話し合いの場を持ち、さらに職員の自信に繋げ、意義のあるものにしています。また、外部からの評価により自分たちの努力を結果として見ることで、現状に満足せず更に入居者様に対するアプローチの工夫に取り組み、新たな成果を得ています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに実施しています。会議で出された意見は職員間で共有して取り組んでいます。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者様の生活状況の報告や困難時（帰宅願望など）入居者様の状況についてホーム側だけの判断ではなく、県及び町村担当者とご家族を含め随時相談を行いながら進めています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	行政の方を講師に、成年後見制度や地域福祉擁護についての学習会を他事業所と合同で実施しました。	○	今後、入居者様にそのような事態が生じたときには支援していく予定です。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	行政の方を講師に招き、高齢者虐待防止法について学習する機会を持ちました。また報道による情報があった場合はすぐに朝の申し送りの議題として、何が虐待かを周知するように努めています。また入浴時や清拭時に身体状態を観察し、異常がないか、虐待がないか見過ごすことがないように努めています。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	重要事項説明書･契約書については入居時に十分説明を行っています。その際に「十分な説明が出来ているつもり」で一方的な説明にならないように、疑問点や不安なことについてはご家族からお聞きして、納得して同意を得るようにしています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様と職員が日頃から十分なコミュニケーションを図り、苦情や不満を直接訴えられる環境作りに努めています。訴える事が出来ない入居者様には会話の中で聞き取りを行うようにしています。またホーム内には苦情･ご意見箱を設けてご自分で書ける方には書いていただいています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ご家族には健康記録･日々の生活の様子が伝わる写真や活動記録･金銭管理の報告を実施しています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へのアンケートを実施し、送付先は本社としました。また不満や苦情を話していただけるよう、ホームで食事会を催すなど日頃から十分にコミュニケーションを図り話せる環境、関係作りに努めています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議を行い、職員の意見･提案を聞く機会を設けています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間帯について、行事等で忙しい時は職員の勤務調整を柔軟に行っています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時は代わりの職員に入居者様が慣れるまで職員同士が協力し、一緒に支援を行っています。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらﾄﾚｰﾆﾝｸﾞしていくことを進めている	実践者研修･ﾘｰﾀﾞｰ研修･管理者研修への職員の参加、また資格取得も推進し、負担なく参加できるよう全面的な資金援助を行い社員の質、能力、知識の向上に積極的に取り組んでいます。また毎月目標と成果の提出を義務づけ社員の自己啓発に努めています。	○	本年より本社において他県のｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑの様子を見学･研修し、看取りの実践に向けて知識･能力の向上を図るよう研修プログラムを予定しています。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ﾈｯﾄﾜｰｸづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の相互訪問は行っており、その際お互いに情報交換をしています。合同での学習会を数回実施しました。良い面を取り入れ日常業務の中で効率よく時間配分ができる取り組み等参考にしています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のｽﾄﾚｽを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	社員の意見を取り入れ本社にて定期的な業務の見直し、評価を行っています。職員からの要望や勤務上の問題点、その他改善点についてユニットごとに会議を開き、本社宛に報告し入居者様の状況も考慮した上で変更し、環境の向上に努めています。	○	本年7月より入居者様の状態に対して職員の心身的負担を軽減する目的で、勤務時間の見直し、夜勤時間の短縮など、運営者･管理者･職員代表と労務士を含め協議し、変更を予定しています。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	入居者様の認知症状を軽減し、介護度が上がらないように様々なアプローチを一緒に考え、試み、経験を通じて得た成果を評価することで職員の自信となり、向上心へと繋げています。また実習や他施設への見学など外的刺激を受けるよう、努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談時に本人との面談を数回行うことで信頼関係を築きながら、介護職員の意見や提案を取り入れ不安なこと、求めていることを受け止める努力をしています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談時には十分な時間をかけて面談やご自宅を訪問し、ご家族との信頼関係を築きながら不安なこと、求めていることを受け止め、我々に出来る事を提案し協力しあえる関係作りができるよう努力しています。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の際には本人・家族のニーズを見極めて、適切なサービスを提供できるように努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、急な環境の変化に困惑しないようご家族にもご協力頂き、職員と馴染みの関係を築きながら安心してご入居頂けるよう努め入居に至っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の今までの生活歴を知り、本人を尊重する事で多くの事を学び信頼関係のもと、支えあう気持ちで接するよう努めています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	介護職員は、ご家族の思いを共有しご家族の協力を得ながら生活していただけるよう努めています。例として入居者様の誕生日会にはご家族も参加していただき、食事やレクリエーションを通じてお祝いの時間を共有していただいております。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が入居することによってご家族の負担やストレスを軽減し、ご家族には心のゆとりをもって本人と接して頂けるように努め、本人には自由な面会や手紙を書いて頂くなど家族関係が薄れないように努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・友人等が面会に来られた際には思い出に残るようにと写真を一緒に撮影するなど、ゆっくりと過ごして頂けるよう心がけています。またドライブ等で入居者様が今まで住んでおられた地域に出かけ思い出話を聞かせて頂いています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	おやつ作りなど共同作業が出来る時間を積極的に取り入れ、職員が間に入りコミュニケーションがうまくとれるよう心がけています。また、入居者様同士もお互いの居室を訪れて交流されています。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後もご家族の相談には応じています。また馴染みの関係であった入居者様と一緒に退去されたご本人に面会に行ったりと、関係を継続していけるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と十分コミュニケーションを図り、継続した信頼関係のなかで思いが十分聞き入れられるように努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはご家族より、本人の今までの生活ﾘｽﾞﾑ等の情報をできる限り収集し、それを元に入居後は本人やご家族の意向を状況に応じてプランに取り入れられるよう努力しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族やケアマネージャー、友人等より情報を収集し趣味や趣向を取り入れ、残存する機能が低下することを予防しﾒﾘﾊﾘのある生活ﾘｽﾞﾑを築き継続出来るように支援に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護職員は、主治医や薬剤師に対し、こまめな報告・相談を行い、その都度主治医に相談し、健康・衛生・安全に配慮した計画を作成するよう心がけています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回ケアカンファレンスを開催し、本人の状態の変化や意向の確認、職員の気づきを取り入れてプランの見直しを行っています。急な変化に対しては、職員からの情報や家族との連携により柔軟に対処するよう努めています。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務記録には入居者様の言葉･表情を記入するように努め、日々の申し送り時に職員間で情報を共有しています。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎朝必ず、出席できる入居者様には声かけし、1階･2階合同でラジオ体操や歌を実施し、ユニット間での交流を行っています。またお天気の良い日には戸外でラジオ体操を行っています。	○	今後はショートスティの利用を実施できたらと考えています。
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している	様々なボランティアの方々にも訪問していただいており、ご協力いただいております。	○	民生委員の方の協力や地域の警察官の方にも随時訪問をお願いしており、顔なじみになっていただきたいと考えております。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在の取り組みとしては、入居者様の前担当者及び施設、病院の地域連携担当者に対しては入居後の生活の様子や身体状況についての報告を行い、継続的な支援協力を頂けるよう努めています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	帰宅願望が強いといった前例があり、馴染みの関係を築きあげるまでに地域包括支援センターの協力を得ました。今後もこちらでの状況は経過報告していくよう努めています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人･家族の希望される主治医に依頼し、定期的な訪問診療や定期受診を実施しています。受診の際は職員が同行介助し日頃の生活状況を主治医に知っていただき治療の参考となるよう、治療中の病気に対する経過記録や良くなった点、また問題点を相談し指導していただいています。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的な受診はご家族が介助されていますが、ご家族が都合の悪い時は、職員が受診介助して専門医から指導を受けています。受診の際には、生活情報を主治医に持参し参考にしていただけるよう努めています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	通常の業務では介護職が健康管理を行い、看護師と相談し必要時は主治医と相談しています。なお本社の医師にも入居者様の日常の健康記録表にて随時指導を受けています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中には出来る限り面会の時間を作り、なじみの職員との時間をつくることにより入院中の不安や不穏を軽減しスムーズに治療が出来るよう支援することにより早期退院に繋げるように努めています。また、医療スタッフとの連携、退院後の対処法など情報交換を行っています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には看取り看護を説明しています。	○	本年度よりｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑの在宅医療が整備され、医療保険による訪問看護が可能になり、重度化や終末期について選択肢が広がったため主治医やご家族とで早い時期から方針を検討し急な場合に備えていきたいと考えています。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居時にこちらでできること、出来ないことの説明は行っていますが、身体の変化によりその時点でのできること、できないこと医療機関や主治医と連携を図りながら変更し、基本シートを作成していく必要があると考えています。	○	上項同様、日頃から主治医・ご家族を含め、こちらでできること、できないことを明確にし、急な場合に備え整備していきたいと考えています。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在対象者は居りません	○	現在対象者は居りませんが、センター方式のアセスメントツールを使用して情報を十分伝えたいと考えています。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の記録等は職員意外、部外者はもちろん入居者様の見えないカギのかかる場所に保管しています。また、対応については一人ひとりを尊重して声かけを実践しています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外出･散歩･買い物の機会を多く設け、買い物の際には声かけを行い食べたいものなどの自己決定をして頂いています。また、入浴･食事なども本人の希望する時間帯やペースに合わせた支援に努めています。	○	以前は行っていました外食ですが、入居者様が増え、現在は行っておりません。今後、身体状況が落ち着かれたら機会を設けたいと思います。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会社理念を基に職員全員が「個人のペース」を大切にするよう心がけており、少人数施設の特徴を活かし本人の希望を聞きながらできるだけ意思を尊重して日々の予定を立て支援を行っています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望に応じ本人の望む店に行く体制ではあります。入居者様のご家族のご好意によりボランティアで理美容をしていただいております。そのため、美容院に行く方は数名にとどまっています。また一日中パジャマで過ごされることがないよう生活にメリハリをつけていただくよう支援しています。女性の方にはお化粧も支援しています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる際には嗜考を聞いて取り入れています。また配膳の手伝いや野菜を洗ったり切ったりと積極的に参加していただいています。お料理がお好きな方には作り方や時には味付けをしていただき作る楽しみも支援しています。職員と一緒に会話を楽しみながら同じ食事をしています。おやつもできるだけ入居者様と手作りしています。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	主治医、ご家族了解の下で健康チェックを行いながらお酒やタバコ等も楽しんで頂いています。喫煙者については、1名おられますが、職員が見守りの中で会話を楽しみながら喫煙場所で吸っていただいております。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	リハビリパンツ使用の方にはその方のパターンを把握して、パターンに沿った随時誘導を行い快適な排尿・排便が行えるように援助しています。以前ﾘﾊﾋﾞﾘﾊﾟﾝﾂを使用していた2名の方が、現在では布パンツで失敗なく過ごされています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝9時頃から22時頃まで本人の希望の時間に入浴を実施しています。入浴拒否される方に対しては体調の良い時間帯に誘導したり、それでも拒否される方については清拭・足浴等実施しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間眠れない方に対してはお茶を勧めたり、職員が会話しながら気分を落ち着かせゆっくり過ごしていただくような支援をしています。休息に関しては、体調不良でない限り本人の意思決定に沿って自由にしていただいています。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや洗濯・掃除または趣味の畑仕事など思い思いの時間を過ごされています。自室に引きこもりがちな方には声かけを行い職員と一緒に楽しみを見つけていただけるよう促しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力により少額の小遣いを本人が所持管理し、日々の買い物時にはご本人の欲しいものが買えるように支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺を毎日散歩される方や一時的な帰宅、職員と車でドライブを楽しむなど買出し・畑仕事等、日々入居者様の健康状態に配慮し支援を行っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見・ドライブ等、日頃出かけられない場所を入居者様を含め、皆で決めて出かけています。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の思いを引き出し傍で支援し、電話での会話を楽しんでいただいたり、ご家族に手紙を書いていただくなど疎遠にならないよう努めています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者様と一緒にお茶やおやつを楽しんで頂き、ゆっくり談話出来るようにリビングを開放しています。また、誕生日会や食事会、敬老会などイベントの際にはご家族が積極的にご参加下さってます。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員が十分理解し、契約書に身体拘束をしない旨記載し同意書を頂いています。徘徊、帰宅願望が強く拘束を申し出されるご家族も居られましたが、職員の支援によりご家族のご理解とご協力が得られています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠していませんので玄関にはセンサー付きのチャイムを付け入居者様が外出された時には察知出来るようにしています。入居者様の状態により、ご家族の了解をいただき、安全のため施錠する事もありました。また家族の方の中には防犯のため玄関の常時施錠を希望される方も居られます。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室は基本的にドアを閉めて生活していただいてます。体調不良時等や必要な時は少しドアを開けた状態で休んでいただいてます。		
68	○注意の必要な物品の保管･管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物等危険物、薬は施錠が出来る事務所内で保管しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを基に学習し、事故やヒヤリハットが発生した場合には緊急に職員間で事故分析し、情報を共有化すると共に再発予防に努めています。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日高広域消防の協力で救急車が到着するまでの応急手当を学習しました。今後も定期的に訓練を予定しています。入社時にマニュアルを活用し、応急手当や初期対応の訓練を実施しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時には警察･消防･役場へ通報し協力が得られるような働きかけをしております。水害等で万一、救急車の出動が困難な状況であっても急病人が出た場合はヘリコプターでの救助も得られます。なお災害時の避難訓練は年2回の7月･1月に予定してます。	○	今後は、入居者様の身体状況の変化に応じて災害を想定した対処法を協議検討してまいります。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居前に情報収集した中から入居時には起こりうるリスクをご家族と共に相談し、問題が起こらないように、情報を共有しています。また入居後も電話等にて連絡･相談をし、訪問された際にはこまめに話し合いの時間を持つように努めています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	著変ない場合は、朝の定時(10時)と入浴前のバイタルチェックを行い常に職員間で一人ひとりの日頃の状況を把握、共有し異常時の早期発見に努めています。家族、医療機関への連絡については健康管理表を持参して主治医に報告し、指示を得ています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況一覧表を作成し職員が目に付く場所に添付、薬剤師から服薬に関する指導を受け、職員一人ひとりが内容を理解し間違いのないように管理しています。また薬の写真も確認できる場所に添付し服薬事故の防止に努めています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	1日１８００ccを目標とし水分摂取の勧めと1日の水分摂取量の把握、食物繊維の摂取、ラジオ体操や体を動かすレクリエーション等を取り入れています。また水分摂取が困難な方や少しでも多く摂取できるようおやつなども工夫しています。水分摂取については入社時に指導しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科医の往診にて入居者様の歯の状態を診ていただいています。毎食後は口腔ケアを実施し、外出後はうがいを促しています。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を立てる際にバランスよく食品が摂取できるように努めています。また水分や食事量については職員全員が把握できるよう毎食後チェックし記録しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	入居者様のご家族（保健師）の協力により、ノロウイルスなどの感染症について勉強会を行いました。またマニュアルを活用して日常の生活の中ではこまめなうがいや手洗いを実施しています。	○	今後も様々な方のご協力をいただき勉強会を行っていきたいと思っております。また、本年は、7月に医師による健康管理の勉強会を予定しています。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はできる限り使いきっています。ただし、刺身などの生ものについては食事直前に購入しています。調理用具とシンクについては塩素消毒で毎日殺菌消毒しています。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はスロープまたは、手すりの設置で安全に安心して出入りができるよう工夫しています。また花壇や園芸で家庭的な雰囲気を心がけています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、ﾄｲﾚ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高齢者は体温調節が困難なため室温には常に注意しています。共用スペースなどは西日が強い時間帯にカーテンで光の調節を行っています。できるだけ季節を感じていただくために季節の花を飾ったり、外の景色が見れるようにしています。また入居者様によって個人差があり耳の不自由な方もおられますので、耳元で会話し、できる限り大きな声を出さないように努めています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースには座椅子や枕を使用して、昼寝をされる方や、畳スペース以外にも、ソファーを準備し、談話スペースを多く取り入れ、一人ひとりの自由な過ごし方ができるよう工夫しています。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の馴染みの家具や寝具を持参していただき、ご家族の写真を壁に貼っています。		
84	○換気･空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	出来るだけ自然の風を取り入れる為窓を開けていますが、夏場･冬場はエアコンを使用することで快適に過ごしていただいています。また温度計を各部屋に設置して日中の温度差には注意をしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は手すりの設置で安全に移動ができるよう工夫しています。浴室については家庭浴槽の為入浴補助具を活用して本人の力が十分活かされるように工夫、介助しています。転倒時の怪我の軽減の為、クッション床を使用しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	家庭での日常的な作業として、洗濯物をたたんだり調理への参加やお茶碗洗い、掃除等一緒に行っています。また、困惑していたり説明を必要とする際にはゆっくりと時間をかけるよう努めています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りには手作り椅子を設置して休憩場所としています。菜園畑では入居者様と一緒にイモ類･トマト･ピーマン等を植えて収獲を楽しみました。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

①地域で生産された安全でなじみのある家庭的な食事の提供に努めています。
②介護職員の理想を押し付けるような介護はしないよう心がけています。
③職員は互いに協力し、入居者様やご家族の思いに対し、支援できる関係作りに努めています。